

特集2 第14回広島大学心理臨床セミナー

子どもの自殺予防について考える

—学校や家庭でできること—

石田 弓

(広島大学大学院教育学研究科附属心理臨床教育研究センター)

2008年10月19日(日)に広島大学千田町キャンパスにおいて、第14回広島大学心理臨床セミナーを開催した。今回のセミナーでは、子どもの自殺予防について焦点を当て、「子どもの自殺予防について考える —学校や家庭でできること—」をテーマとした。

1998年以來、わが国の自殺者数は年間3万人を越える深刻な状況が続いている。不況続きの世の中で、働き盛りの中高年の自殺が増加している一方で、思春期・青年期にある子どもたちの自殺に関する報道を耳にすることも多くなった。また、子どもによる殺傷事件もあとを絶たない。いずれも複雑な背景があるものと思われるが、「生命の大切さ」に対する認識が、今日の子どもたちのなかで乏しくなりつつあることが考えられる。こうした状況で、大人は子どもたちの身近なところにおいて、自殺や「死」の問題に対して、どのようなはたらきかけができるのであろうか。

一般的には、子どもの自殺の実態が十分に理解されているようには思えない。むしろ、マスメディアによるセンセーショナルな自殺報道に左右され、子どもの自殺に関する誤解などが広がってしまう恐れがある。また、子どもたちの身近にいる親や教師が、自殺のリスクを抱えた子どもたちを早期に発見し、対処していくためには、何をどのようすればよいかについても十分に認識されていないものと思われる。さらに、学校現場で活躍するスクールカウンセラーなどにとっても、子どもの自殺予防のあり方について考えておくことは重要なことである。

そこで、本セミナーでは、一般公開のかたちをとり、子どもの自殺問題について多くの保護者や教職員とともに考える機会を設けることとなった。そして、広島大学保健管理センターで、大学生の自殺問題にも取り組んでおられる内野悌司先生に、子どもの自殺の現状と自殺予防についてご講演をお願いした。また、中学校の教諭であり、臨床心理士でもある阪中順子先生に、学校における子どもの自殺予防教育の実践についてご講演をお願いした。さらに、自殺を未然に防ぐために、親が子どもたちに対してどのように「死」を教えていくことができるかという難しいテーマについて、沙羅の会カウンセリングハウス代表の細井八重子先生にご講演をお願いした。

当日は、パワーポイントを用いて一般参加者にも分かりやすい講演がなされた。そして、3つの講演の後には質疑応答の時間をとり、フロアからいくつかの質問を受けた。講演の詳細については、本紀要に掲載された講義録をご覧ください。